

# 学外研修報告

## 2017 年度機器・分析技術研究会 in 長岡に参加して

共通機器部門 藤高 仁

### 1. はじめに（目的等）

本研究会は、各教育・研究機関の機器分析に携わる技術職員が、日頃の業務の成果等を討論するものである。本研究会を通じて全国の技術職員と交流し日常の業務遂行に役立てるために出席した。また休憩時間を利用して本研究会の開催・運用を決定する地域代表者会議への出席と機器・分析センター協議会技術職員会議の進行及び協議会本会での報告内容の協議を行った。

### 2. 期間・場所

期間：平成 29 年 8 月 28 日～31 日

場所：アウォーレ長岡・長岡技術科学大学

### 3. 参加者等

大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員 220 名以上

### 4. 研修内容

午前中技術交流サロンとして長岡技術科学大学大学院 芳司俊郎先生の講演「やってみせて・・・山本五十六と安全対策」を聴講した。午後より研究会開催にあたり長岡技術科学大学 東信彦学長による挨拶と特別講演「南極氷床深層掘削とアイスコア分析」を聴講した。講演後は 63 件のポスター発表

に移り発表者や参加者との内容の濃い討論が行われた。

二日目は午前より 18 件の口頭発表が行われ熱のこもった議論が交わされた。

## 5. まとめと感想

特別講演にてお話いただいた安全に対して意識して慎重に作業を行うことは大事であるが、そもそも装置や機器に危険を回避するための安全装置が適切に組み込むこまれていることとその安全装置をどのように動作させるかが重要であることを認識した。

東信彦学長の講演を聴講し研究者が苦労の末に試料の採取試料や研究対象物の作成を懸命に行っていることを伺い、改めて分析をする際に慎重な試料の取り扱いを行わなければならないことを認識した。技術職員の発表においては担当装置に関する発表においては深く議論する事ができ、また経験のない業務に対して興味を持った発表には積極的に教えを請う事ができ知識の習得につとめた。